



カバさんがわらったよ

山 岸 裕 和 札幌市立円山小学校 (1年)

北海道教育美術展奨励賞作品

評 とても、おおきな、カバさんが、にっこりとわらいましたよ。めと、はがかわいいですね。

目 次

ようこそ札幌大会へ……………2

札幌大会 実践発表の骨子……………3

提言「これからの造形教育」 ……4・5

サークル紹介 -後志- ……………6

第18回北海道教育美術展によせて……………7

サクラクレパス・あとがき ……………8



北海道 造形教育 連盟報

No. 89 1991.7.28 発行

発 行 北 海 道 造 形 教 育 連 盟

事務局 〒065 札幌市東区北46条東13丁目1番地

札幌市立栄東小学校 鹿 嶋 健

☎011-753-2670

ようこそ札幌大会へ



札幌大会実行委員長

(北海道造形教育連盟事務局長)

鹿嶋 健

(札幌市立栄東小学校長)

第41回全道造形教育研究大会を久しぶりに札幌で開催することとなりました。全道各地から日頃の実践をたずさえてお集まりくださいました会員のみなさまから歓迎いたします。前回は第34回大会でしたから7年ぶりの開催、また、第1回の札幌大会から数えますと通算で9回目の意義ある大会となりました。

ときたまま教育改革の機にあたり、明年度から新学習指導要領が実施され、本年度はその移行措置期間の最終年度にあたります。

今日の科学技術の進歩や経済の発展は、豊かな社会を作り出すとともに、情報化・国際化・価値の多様化・核家族化・高齢化など、社会に大きな変化をもたらしております。こうした激しい社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる資質や能力を育てることが強調されております。

また、今回の改訂においては、個性を生かすことや創造性の基礎を培うことが重視されておりますが、これは新しい文化を生み出す方向へ、学校教育の転換を図ることを意図したものであると考えます。すなわち、知識や技能を教師が教え込み、それを児童・生徒が受け身の形で受け止めるような傾向を改めて、児童・生徒が自ら学び自ら考える教育へと学習指導の質的転換を図ることが学校教育の大きな課題になり、そのためには、教える側に立った授業から児童の側に立った授業のあり方が求められているものと思われまます。こうした中において図工科教育、美術教育のあり方も見直され、授業も大きく変わっていくものと考えられます。

こうした、時代の要請や背景を考えますとき、私達、造形教育にたずさわるものの使命はまことに重大であり、また、各方面から期待されるものも大きいものと認識しております。

私達はこうした意味を考慮し、明年度から実施され

ます新学習指導要領に基づく「授業のあり方」を研究の中心にすえて実践を進めてまいりました。試行錯誤の連続でしたが、ご批評をいただくとともに、みなさまの実践をも交流しながら検証を深めてまいりたいと思います。

この大会の準備は2年前から進められてきました。

北海道教育委員会、札幌市教育委員会をはじめ後援くださいました教育関係の諸団体、会場を引き受けてくださいました三角山小学校の佐々木校長先生や諸先生、授業者や児童・生徒を派遣していただきました各校長先生、大会のために勤務時間も超越して努力された連盟・札幌研の仲間達、そして、いろいろとお力添えをいただきました協賛会員の方々やPTAのみなさま、数多くの方々の善意と協力によってこの大会が実施できました。心から厚くお礼申しあげます。

それにしても大会の手続きや諸々の仕事がかんなに多くあるものと驚くとともに、毎年各地で行なわれます大会関係者のご苦労とご努力を改めて認識した次第です。

私達部会員は、それぞれの分野で力いっぱい努力したつもりですが、至らない点も数多くあると思います。そのところは「一生懸命努力した」という誠意に免じてご容赦いただきたいと思ひます。

この全道大会が、我々造形教育にたずさわる者にとって、よき研鑽の場となり、心のよりどころになっているものと確信しておりますし、更に、この研究成果が明日からの本道の美術教育に、21世紀を背負う子ども達の人間形成に寄与するものと信じてやみません。

会員みなさまの益々のご研鑽とご活躍を心からご期待申しあげますとともにこの大会にお力添えをいただいた数多くの方々に心から感謝申しあげて私のあいさつといたします。

札幌大会研究発表の骨子とお願い

札幌大会研究部長 富田 泰
(札幌市立伏見小学校)

夏の夜空に輝く天の川で彦星と織姫の年に一度の巡り合いのごとく、全道の美術教育に携わる我々が、一同に会する北海道造形教育研究大会第41回札幌大会が開催されました。

去る帯広大会、苫小牧大会に続いて「子どもの個性的表現を授ける造形教育」の充実を願い、議論を重ねてきました。大きな教育の流れの変化をみつめると同時に本連盟の研究の歩みを基礎に新しいものを求めてきました。

また、札幌大会を迎えるにあたって、事前授業検討会を持つこともできました。連盟の多くの方々のご尽力により実現できました。連盟の研究部や若い者にとってこのような場ができたことは、具体的実践交流の新しい試みとして歓迎できるものと思っております。

そして、全道各地との交流がこれを機会に今まで以上に実践を通してつながることを願っています。

今大会の研究実践発表の骨子をお知らせし、当会場で、ご批評ご指導を賜わりたくお願い申し上げます。

1. 公開授業 (幼1・小8・中3)

『もう一つの授業』づくりを合言葉に…

- ①画一過ぎる
- ②技術や技能の押し付け
- ③教師の枠組みの中の活動
- ④作品化 (コンクール向け作品づくり)

などいわゆる*教師中心の教えこみ授業
*教師リードの誘発誘導授業

ではなかったかの反省がある。

そこで、本性や本能的なものまで含めたあそびを取り入れ、造形活動そのものに幅をもたせ、ゆとりのある指導計画、指導内容をめざしたい。

- *幼稚園の「あそび」
- *小学校の「造形あそび」
- *中学校の「あそび心」

*高等学校の「あそび心」といったものを造形活動に盛り込み具体的には材料や用具に幅やゆとりをもたせ、子どもの思いに任せる内容が今まで以上に

必要であろう。

- また、*領域をはずした教材
- *学級経営を基盤とする授業づくり
- *授業展開のユニークさ

をめざす。

という考えのもと、『もう一つの授業』を考えた。

2. 分科会提言 (各分科会平均2提言)

- ①これからの造形教育を考える
- ②新しい試みとしての実践提案
試行錯誤の上の提言、諸問題の提起になれば。

3. クリエイティブブラザ (創造の広場)

校舎の内外全体を広場とし、児童の作品展示と体験コーナーを設けた。

- ①パネル発表 (24人)
ア. 各階教室廊下壁面に全紙判の大きさで
イ. 新しい指導計画や指導過程の提起
ウ. 事業実践を写真と説明

- ②体育館平面展示
ア. 中学校パネル発表
(生徒作品……30枚 180×90mm判)

- イ. 世界児童画, 教育美術作品展示
ウ. 札幌こども造形展作品展示

- ③体育館立体作品展示
ア. 工作作品展示

- ④ポスト展示 (各階廊下…1ポスト)
ア. こども造形展パネル展示
イ. 幼稚園作品展示
ウ. 広報さっぽろの表紙展示

- ⑤造形パフォーマンス (体育館・廊下2日目)
ア. 協力業者と合同で材料用具の体験
イ. 子どもの作品にふれてみる

- ⑥野外展示 (芝生・プール・フェンス・石垣・校舎・ピロチー・遊歩道)

4. 実践集『造形の未来をひらく』(配布)

これからの造形教育を志向して、新しい試みを一冊の実践集にまとめた。(小・中学校)

5. 中学校全体分科会

これからの美術教育-教育課程の実践的課題-新教育課程に中学校の対応はどうあればよいかなどについて、提言を中心に話し合いを行う。

以上、骨子を記述いたしました。その他に鑑賞の授業があります。鑑賞教育を問うもので、皆様の多数のご参加をお願いいたします。



幼稚園における 造形活動について

札幌市立白楊幼稚園 酒井 三佳

保育室に何気なく置かれた廃材コーナー。空箱あり、空容器あり、トイレットペーパー等の芯あり。普通ならゴミ箱へ直行してもあたりまえな物が子ども達にとっては貴重な製作物の材料となります。

「先生見て見て！カタツムリができたよ！」ふと見ると、女の子の手の上にはガムテープの芯にアイスクリームのさじを2個テープではったものがちょこんと乗せられています。

自分の作りたいものを作るのできる自由があり、イメージをふくらますのできる材料、用具がある環境、そして、イメージを形に表現するのできる技術があれば本当に素晴らしいことだと思います。

「作りなさい！」と言われて作るのではなく、自分が作りたいから、遊びに必要だから自分で考えて作ったという経験の積み重ねを大切にしていきたいと思います。そのためには、子どもが今何を考え、何を表現しようと

しているのか、その内面をとらえることが大切になってくると思います。しかし、子どもの内面を読みとることはとても難しいことと思われれます。子どもの目の高さになって少しでも子どもの興味・関心を引きつけられるような、心を動かすことのできるような環境作りができたらと考えています。

保育室にもう1度目を移すと今度は数名の子がカタツムリを作り始めました。そのうちにヒゲをはやしたお父さんカタツムリや小さな赤ちゃんカタツムリも登場しました。「カタツムリ一匹下さい。」と、お金を自分で作って買いに来る子まで出てきました。一人の子の作ったカタツムリがきっかけとなって遊びはお店ごっこにまで広がりました。

描いたり作ったりするということが、それだけで終わってしまうのではなく、それらが何らかの形で自分達の遊びや生活にどんどん広がり生かされていくことも大切なことではないでしょうか。

幼児期だからこそ体験できる造形活動を通して、豊かな感性、そして人間性が育つことを願いつつ保育に励んでいます。

生徒指導要録改訂にみる 造形教育のポイント



北海道教育大学附属札幌中学校
塚野 昭臣

今回の生徒指導要録の改訂では、従来の「美術への関心・態度」に、「意欲」が加わったこと。「美術の表現能力」が「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の2つに分けられたことが大きなポイントであろう。

関心・態度に新たに「意欲」が加わったことは、美術に限らず、先に発表された新学習指導要領の改訂のポイントでもある、生涯学習の基礎基本としての学ぶ意欲を育てることを大切にす姿勢のあらわれといえる。やる気を育てるとか、積極的に作品づくりに取り組ませることを、今まで以上に考え、実践していかなければならない。そのことは本来、主体的に活動する中学生の意欲を失わせているものは何か、その原因を探り、対応を迫られているのである。

生徒が制作に一生懸命取り組み、教師も指導援助する、生徒が楽しく作品づくりが出来たり、物をつくる喜びや

表現する充実感を味わえる授業がなされることが生徒の意欲を育てる。

次に問題となるのは出来上がった作品である。作品の出来、不出来よりもその過程を大切に考える生徒や教師も少なくないが、やはり作品が満足のものでもあり、生徒の学習意欲を育てるのに重要な事であろう。「美術の表現能力」が2つに分けられ、それぞれの能力や技能が高められてこそ、生徒の満足いく作品が出来上がる。「発想や構想の能力」を高めるためには、いわゆるアイディアスケッチの段階での指導取り組みが重視される。スケッチを何枚も描き重ねる過程で生徒自らの表現主題を明らかにさせることが大切である。主題が明確になれば、完成までの見通し（構想）も自分自身のものとして意識できるであろう。

また、「創造的な技能」については、単に完成した作品から技術的な良さを評価するのではなく、その制作過程での、その生徒らしい表現の工夫を評価したり、基礎基本となる技術を身につけさせること大切にしたい。

これからの造形教育では、制作過程の評価のあり方が重要なポイントの1つになるであろう。



子どもの側に立った 造形教育を

札幌市立伏古小学校 小尾 喬

先日、1年生の教室前を通った時、子どもが一人這うようにして教室を出てきた。教師の目を盗み、手に持った5・6本のクーピーで床に線を引ながらである。自分の席から机や椅子の下をくぐりぬけ、やっと廊下までたどりついたのである。ひとまとめにしたクーピーの先からはきれいな平行線が何本となく床に描かれ、長く長く続いた線のシュプールは正しく床への表現活動であった。通りかかった私は、言うまでもなく注意を与えてしまったが、子どもは「ごめんなさい。」と一言、しかし、さほど悪びれたようでもなく、むしろ、自分の想いが床という広く質感のある画面の中で達成でき、喜びと満足感でいっぱいなのであった。

なるほど、造形活動が、自分の世界に浸たり、想いや願いを満足させる場であるならば、この行動を容認してあげなくてはならない。その後、担任の若い女の先生には、床に敷いた大きな紙やアスファルトの上で、子ども

たちの表現あそびをとり入れてみたら……と、事件の報告と合わせて話しておいた。

今までの造形教育は、どうしても作品至上主義から逃れられない面があった。今こそ、子どもたちが、主体的で個性豊かな表現ができるよう、又、子どもの側に立った造形的活動を、子どもの生活の中から見つけ出していく必要があるように思われる。

床事件は、子どもの明らかな挑戦とも思われた。そして、又、私たち教師よりも更に深いところで、「先生しっかり！」と示唆を与えているようでもあった。これからの造形教育の中では、教師は進んで表現することができる環境と場を積極的に保障することが大切である。

“豊かな表現力”は、いつの時代にも口にしてきたことである。「体重測定」という題名から「わあー太ったー」「はずかしいなあ」「どうだ、すごいだろう」などと言葉を変えるだけで、子どもは喚起する。これからの造形教育は、又、子どもの個性や能力を最大限に伸ばすことも大切にしていかななくてはならない。

第41回全道造形教育研究大会の盛會を祈りつつ…。



これからの造形教育

札幌市立石山東小学校 赤石 芳郎

今日学校は、「落ちこぼれ」「画一化」「非行・校内暴力・いじめ」等のさまざまな問題に直面しています。これらの問題の原因は、家庭・社会のあり方、入試制度、学歴偏重の体質など社会全般に関わる問題が大きくウェートを占めていると思われます。

従って、教師は機械的に「教育」を処理せざるを得なくなり、子どもとともにゆっくりと時間をかけてヒトが人となる時間——ほんとうの教師の時間を持ってなくなっているのではないのでしょうか。

こうしたときにこそ学校教育の中で、人間が他の生きものとは決定的に異なる特質である「考えて、ものをつくる」ことに重点をおき、人の心を養い、感情を育て、考える力と手を高める教科である図画工作がより切実に求められなければなりません。

さらに、比類なき変化の激しい時代を生きていくため

に必要な「自ら考える人」の育成という社会の要請もあります。冷静にデータを集め、関係でとらえて自らの思考を働かせて、先例のない時代を生きる方策を立てていく——こんな「考える人」の育成が時代の要請として学校に課せられているのです。

同時に、人間のための自然や、人間のための経済へも反省の目が向けられ、自然の中の人間や、地球規模の人間生活が生き方の典型として求められ、「教育」の主要なテーマのひとつとなっています。

以上のことから、これからの造形教育に心しなければならぬことを何点かあげて問題提起とします。

1. 自然の恩恵の中で、すべての人と仲よく生活できる心を育てよう。
2. 生きとし生けるすべてのものとの共感——やさしさを大切にしよう。
3. 子どもらしい真剣さで、対象とものづくりに当たらせ、その中で自分と対話する姿勢を求めよう。
4. 自然への畏敬やすべての生命あるものへの感情——いとおしさを大切なものとしよう。

サークル紹介



後志教育研究会図工・美術部会

たしかな表現力を育てる指導のあり方～豊かな心や豊かな表現をめざして～

余市町立東中学校 田丸 公記

全道造形研究大会には、何回も参加し、美術教師としての力を少しでも高めようという気持ちは今も変わりません。後志教育研究会が発足して26年になりますが、現在3年サイクル（研修会、研究会、発表大会）、4ブロックに分かれて進められています。後教研のあり方についての検討委員から昨年2年サイクル（研修会、研究大会）の諮問が出されており、来年度又は再来年度から、新しい研究の進め方になるかもしれません。後志管内には19ヶ町村があり、今年度16の町村に図工・美術部会があり、地域に根ざした研究が進められ、授業研究や実技研修など着実な取り組みがなされております。

後志教育研究会図工・美術部会は、各町村教研図工・美術部会の研究との関連をはかりながら、管内の研究を進めております。

尾川和彦校長（退職・札幌在住）、志津照男（寿都小学校長）、坂口美津雄（余市町立沢町小学校教頭）先生のおを受け継ぎ、部長になって3年目の私ですが、前部長であった、志津、坂口両先輩の助言とバックアップのもとに研究を進めているところです。又、若手の実践も力強く感じているところです。

今年度は、京極町立京極中学校を主会場に、第13回後志図工・美術科研究大会が10月2日（水）に開催されます。京極町教研図工・美術科部長の屋木功先生を中心にした、京極町の研究を側面から協力し、全管的な研究の広がりになるように、参画しているところです。研究授業は京極小学校2つ（低学年と高学年）と京極中学校1つが計画されており、研究発表も予定されております。研究主題は昨年の研修会と同じ「たしかな表現力を育てる指導のあり方」～絵画領域を通して～です。

さて、昨年の後志図工・美術科研修会を振り返ってみたいと思います。

◎10月26日（金）京極小学校を会場にして研修会が行われた。

○研究仮説として、第一に対象の見方、とらえ方を実践を通して究明し、発想段階、構想段階での指導を改善充実することにより、たしかな表現力を育てることができる。第二に児童の発達段階に即した技法指導のあり

方を追求し、指導過程の中で効果的に指導することにより、たしかな表現力を育てることができる。

○特設授業（1）「たのしいきゅう食」2年生35名
岡部愛子先生の6時間題材の1時間目の発想段階の授業で、子どもに給食の時間を思い出しやすいように、ビデオを使ったり、パンなどの具体物を使って動作化させて、その動きから、発想・構想に結びつけようという意図の授業で、先生がパンを食べたところで授業が盛り上げてきて、その後も指導の組み立てが良かった。

○特設授業（2）「生活を見つめて」5年生24名
横山秀幸先生の指導計画8時間題材の3時間目の授業で、部分スケッチをもとに相互批評したり、画面構成を工夫したりして、主題がはっきりした下絵をかかせることがねらいであった。電動糸のこで板材を切る友だちを描かせる題材で、OHPの資料づくりの工夫や教具によって、どこを見直し、どう表現すればよいかという、豊かな発想・構想への熱意ある指導であった。

○研究協議

司会者 坂口美津雄（積丹町立日司小学校教頭）

助言者 志津 照男（寿都小学校長）

記録者 佐藤 聖子（岩内町立第一中学校）

松倉金次郎（京極中学校）

○オリエンテーション

後教研図工・美術科専門部長 田丸公記（余市東中）

京極町教研図工・美術科部長 伊藤信衛（京極小）

○研究発表

「人物表現についての実践とパソコンの活用」

福原幸喜（神恵内中学校）

「クロッキー実践・地域素材の教材科」

斉藤信之（真狩村立御保内小学校）

○成果の概要

・他町村からのレポートは、研究発表を含めて7つあり、作品も数多く持参され、具体的な討議となった。

・「人物を中心とした生活画」に視点をあてた二つの授業は、子どもの心情にゆさぶりをかけ、視点を明確にさせながら、段階を登るための一足ひと足を大切に、発想・構想段階の実践で、成果として残る。

教育美術展のこと

北海道造形教育連盟 顧問 松島輝男

教育美術展のスタートは、東急百貨店の札幌進出から始まります。東急が、地元札幌に役立つ文化事業のひとつとして、子供の美術教室を設けたいが、という話があり、その対応の中で美術展の話が出てきました。

全国大会を数年後に控え、連盟も活発化していた頃です。永年の夢である全道規模の美術展構想も、会場難、資金難で実現は難しい。近代美術館・市民ギャラリー等、建てる前宣伝は良いけれど、フタをあけると、利用規則が、使用料金が、とてもの事、子供の美術展としては使える状況にはありませんでした。

そのときの初代社長三浦守氏（現東急百貨店の総帥）が中々の大人物で、美術展にける夢を熱っぽく語る高橋委員長、辻局長初め連盟幹部の声にこたえて、それではと、九階ホール全部を開放しての開催を約束されました。商売抜きの大英断というところでしょう。

それまであった、子供道展の発展的解消という背景があったものの、連盟としては初めての大事業、その責が

事業部長の私に回ってきて大変な事でしたが、常任委員の総力あげての協力で第1回の幕あけを迎えました。広々とした会場にお客様を迎えた時の感動は一人でしたが、市内美術団体の方々の羨望の声や「長靴を履いた家族が観に来てくれた」と北海道らしい反応に喜んでくれた東急の方々の声も忘れられません。

その後、この盛会をみて道新も一枚加えてくれということで、会場は縮小されたものの内容的にすっかり定着して続いていることは誠に喜ばしいことです。

このことは、美術教室の経営をしっかりとやってという約束があつてのこと、美術教室でのきっちとした指導対応が、一層の信頼関係を確かなものになる事を忘れてはなりません。

東急百貨店の永年にわたるご協力と道新、サクラクレパス関係者の方々のご後援に感謝し、北海道教育美術展の一層の充実発展を祈念して、美術展の草創期の一端を記しました。

第18回北海道教育美術展のご案内



北海道教育美術展は、各地の保育所・幼稚園・小学校・中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会で、その作品は全国的に高く評価されています。これも、日頃美術教育にとりくまれていた道内各地の先生方の熱意のあらわれと思います。

今年度も下記の日程で、第18回北海道教育美術展を予定しております。子どもの心があふれ、素直で力強い作品が多数集まることを期待しております。

- ・ 会期 平成4年1月8日（水）～14日（火）〈予定〉
- ・ 会場 札幌駅前さっぽろ東急百貨店11階
- ・ 表彰式 平成4年1月12日（日）午後1時より
札幌駅前さっぽろ東急百貨店10階
- ・ 審査日 平成3年12月26日（木）・27日（金）
- ・ 締切日 平成3年12月16日（月）
- ・ 送付先 〒060 札幌市中央区宮の森4条11丁目4-1

札幌市立三角山小学校内

北海道教育美術展係 宛

*問合せ 札幌市立三角山小学校 熊谷悦代 011-643-1133

サクラ ニューカラー

色も豊富に25色



600ml
ポリビン容器入 WATER PROOF

用途

共同制作、屋外展示作品、パネル、看板
店頭広告、舞台装飾、室内装飾 etc.

特長

サクラニューカラーは、水溶性樹脂(アクリルエマルジョン)配合の木や布・石・金属・プラスチック・発泡スチロールと幅広い対象物に使用できる新しいタイプの絵の具です。

新発売

商品名	番号	小売価格
しろ	ETPW# 50	1,100円
きいろ	ETPW# 3	1,100円
あか	ETPW# 18	1,300円
みどり	ETPW# 29	1,300円
あお	ETPW# 36	1,100円
くろ	ETPW# 49	1,300円
やまぶきいろ	ETPW# 4	1,100円
ちやいろ	ETPW# 12	1,100円
しゅいろ	ETPW# 19	1,300円
わりのびカラー	ETPW# 25	1,100円
あみどり	ETPW# 27	1,100円
あみらさき	ETPW# 124	1,500円
だいたいろ	ETPW# 5	1,300円
はたいろ	ETPW# 7	1,100円
あみだいろ	ETPW# 15	1,100円
ピンク	ETPW# 20	1,300円
ふかみどり	ETPW# 30	1,500円
ぐんじょういろ	ETPW# 38	1,300円
レモンいろ	ETPW# 2	1,100円
こげちや	ETPW# 17	1,100円
むらさき	ETPW# 24	1,300円
あいろ	ETPW# 43	1,100円
ローズ	ETPW# 120	1,300円
もろいろ	ETPW# 125	1,100円
オペラレッド	ETPW# 121	1,500円

サクラピグマックス ペイントマーカー ツイン8色セット 中字8色セット

コンパクトな8色セットケース (ミシン目入りのフタですので、切り取って使うこともできます。)



ツイン8色セット

150×95×49%



中字8色セット

130×82×42%

水性+顔料+不透明調
マーカー

入組配色



しろ きいろ みどり あお むらさき あか ちやいろ くろ

特長

- いやな臭いがありません。
- 紙に書いたとき、裏うつりにじみがありません。
- 書く前に振ったり、ブッシュしたりする必要がありません。
- 金属・プラスチック・ガラス・木・発泡スチロールにも書けます。
- 黒い面・色つき面にも発色します。
- 耐水性・耐光性にすぐれています。
- 空気孔つきキャップ(小キャップ側)を採用しています。

用途

- 図画工作・造形表現に
- ポスター・グラフ・POPの作成に
- 学園祭・運動会の看板書きに
- 持ち物の名前書きに

(ツイン) 単品……1本200円



筆記線幅中字2%

太字2.5%×5%

(中字) 単品……1本150円



筆記線幅2%



株式会社 サクラクレパス

あとがき

「子どもの創る喜びをひらく」を研究主題に、第41回大会が今開かれています。全道から集まった会員の熱気であふれていることと思います。ここで得られた稔りが、きっと多くの子ども達の造形活動を豊かにしてくれることでしょう。そして、北海道教育美術展にも多くの作品をお寄せ下さるようお願い致します。

稲實 順(八軒西小) 植木 則子(桑園小) 島 昇二(札幌小) 岩間 歳仁(厚別中) 毛馬 内國夫(桑園小)